

## 雌阿寒岳の火山活動解説資料（平成 20 年 3 月）

札幌管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。  
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 噴煙及び熱活動（図 2～5）

赤沼火口、北西斜面06噴気孔列及びポンマチネシリ96-1火口、並びに中マチネシリ火口の噴煙の高さは火口縁上概ね200m以下で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

12日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、各火口の状況や地熱域の分布に特段の変化はありませんでした。

#### ・ 地震活動（図 2、図 6、表 1）

火山性地震は一日あたり 0～3 回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

#### ・ 地殻変動（図 7～8）

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

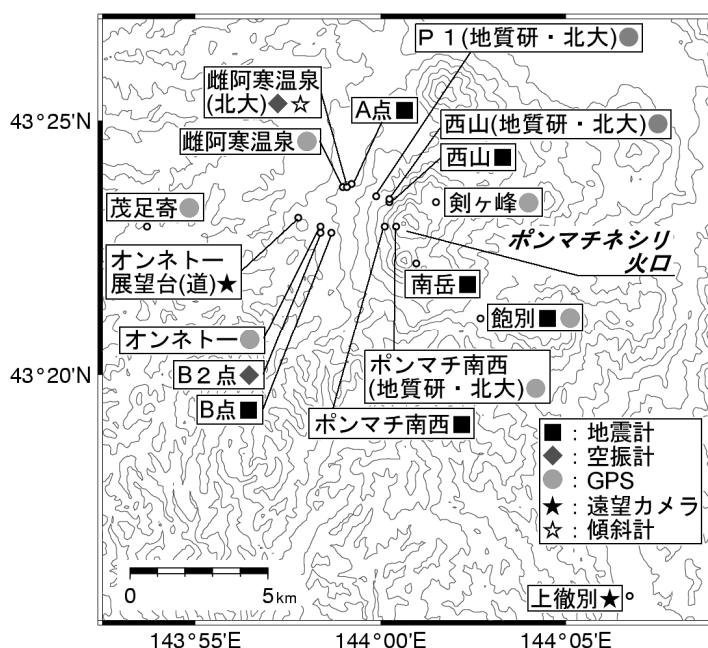


図 1 雌阿寒岳 火山観測点配置図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 4 月分）は平成 20 年 5 月 9 日に発表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

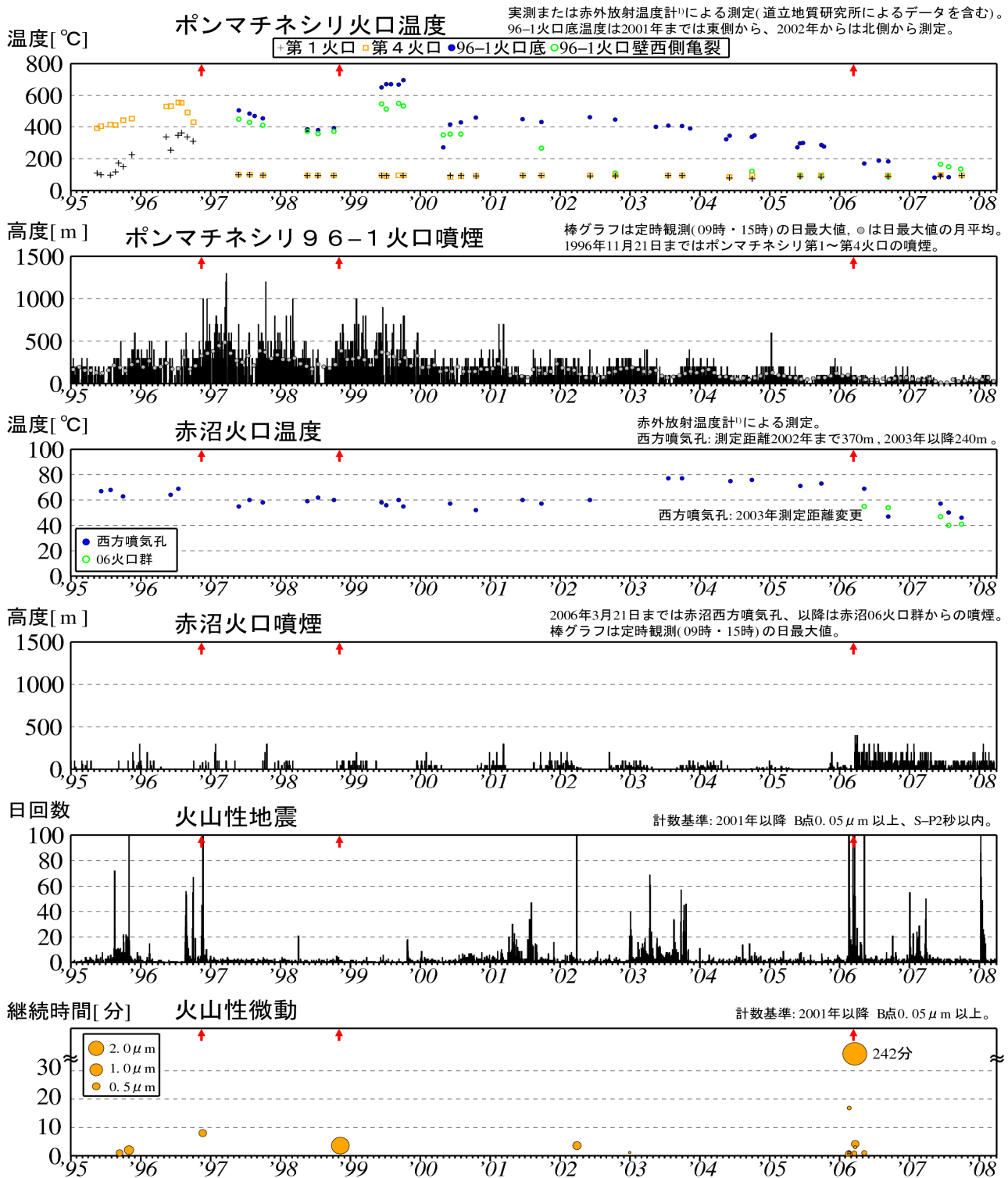


図 2 ※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月～2008 年 3 月) ↑印は噴火  
 (1996 年、1998 年 : ポンマチネシリ火口からの噴火、2006 年 : 赤沼火口からの噴火)  
 ・ポンマチネシリ 96-1 火口の熱活動、噴煙活動は 2000 年以降徐々に低下し、その傾向は 2003 年以降明瞭になっています。2006 年 3 月の小噴火後もこの状況に変化は見られません。  
 ・赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006 年 3 月の小噴火後は活発な状況でしたが、その後活動は次第に低下し、最近では静穏な状況で推移しています。  
 ・地震活動は、2006 年 3 月の小噴火の前後は活発な状態で推移しました。その後は、2007 年 1 月～3 月に一時的に地震が増加した他は低調な状態で推移していましたが、2008 年 1 月 9 日～10 日に地震が多発しました。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図3 雌阿寒岳 赤沼火口の状況  
(2008年3月12日 図4の①方向上空より撮影)

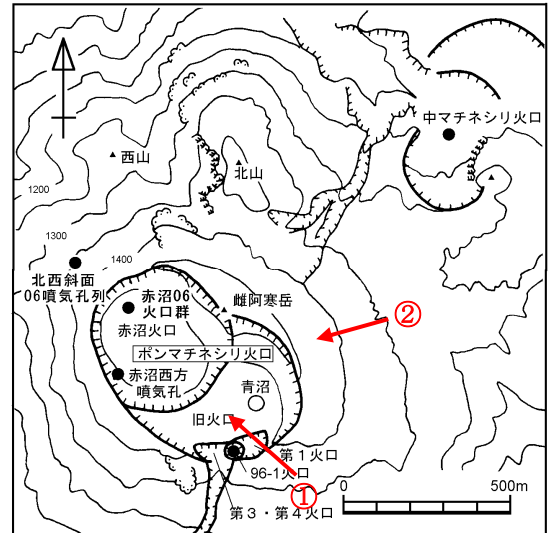


図4 雌阿寒岳 火口周辺図

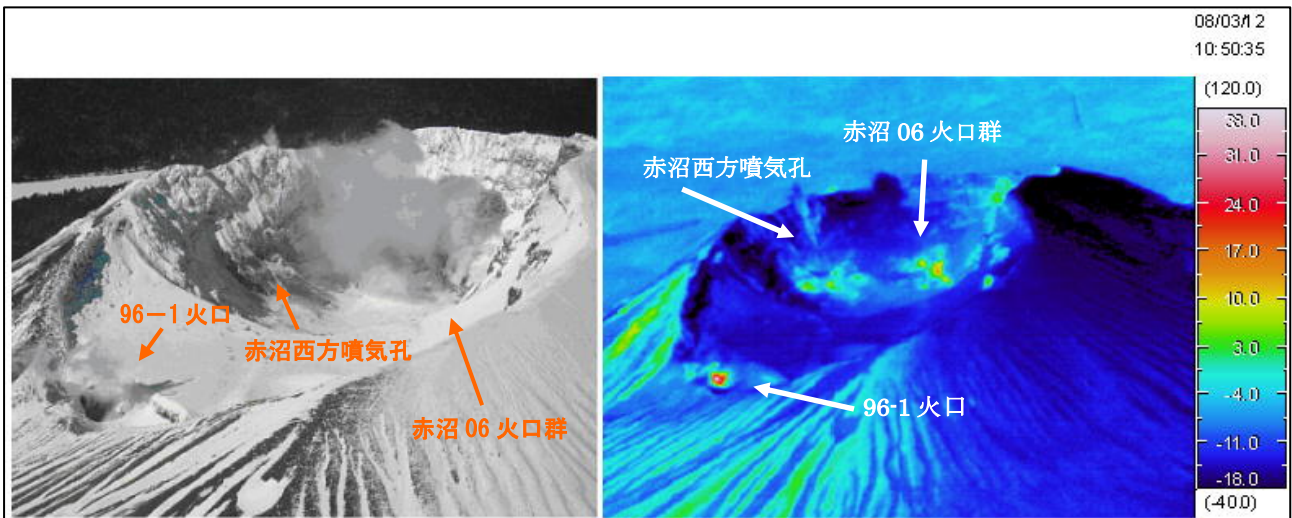


図5 雌阿寒岳 赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による山頂火口付近の地表面温度分布  
(2008年3月12日 図4の②方向上空より撮影)

- ・ 赤沼火口やポンマチネシリ 96-1 火口の状況はこれまでと変化なく、地熱域の分布にも変化はありませんでした。
- ・ その他の各火口の状況にも特段の変化はありませんでした。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数 (図 1 の B 点)

2007~2008 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
地震回数	67	32	28	32	18	32	32	23	26	1056	58	23
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

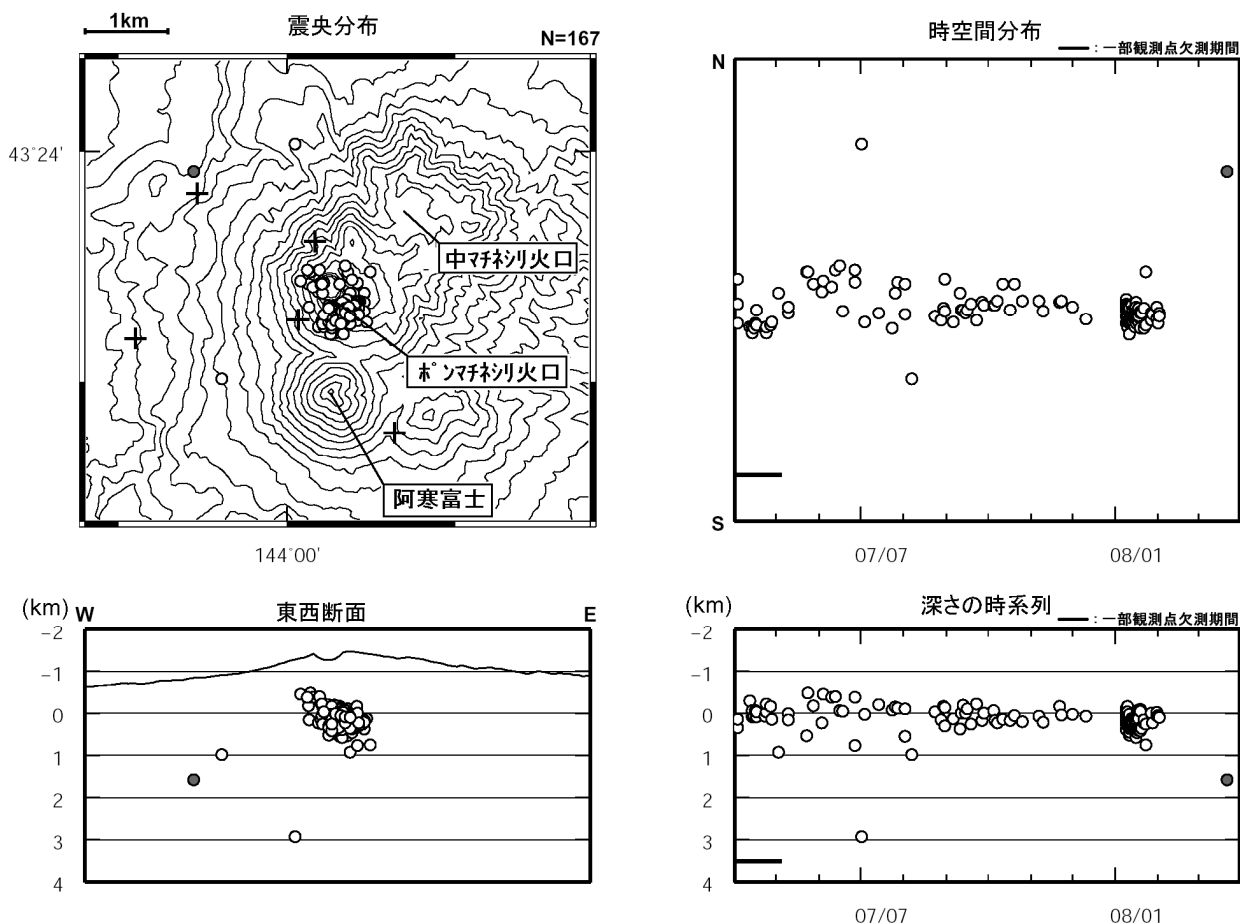


図 6 雌阿寒岳 震源分布図 (2007 年 4 月~2008 年 3 月、+は地震観測点)

2007 年 1 月 3 日~5 月 5 日にかけて一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

●印は今期間 (2008 年 3 月) の震源

○印は前期間までの 11 ヶ月間 (2007 年 4 月~2008 年 2 月) の震源

・前期間までの震源の多くは、ポンマチネシリ火口直下の浅い所 (山頂から深さ 1~3 km 付近) に分布しています。今期間に求まった震源は北西側山麓の一つだけでしたが、震源が求まらなかった地震はほとんどがポンマチネシリ火口直下で起きたと推定されます。

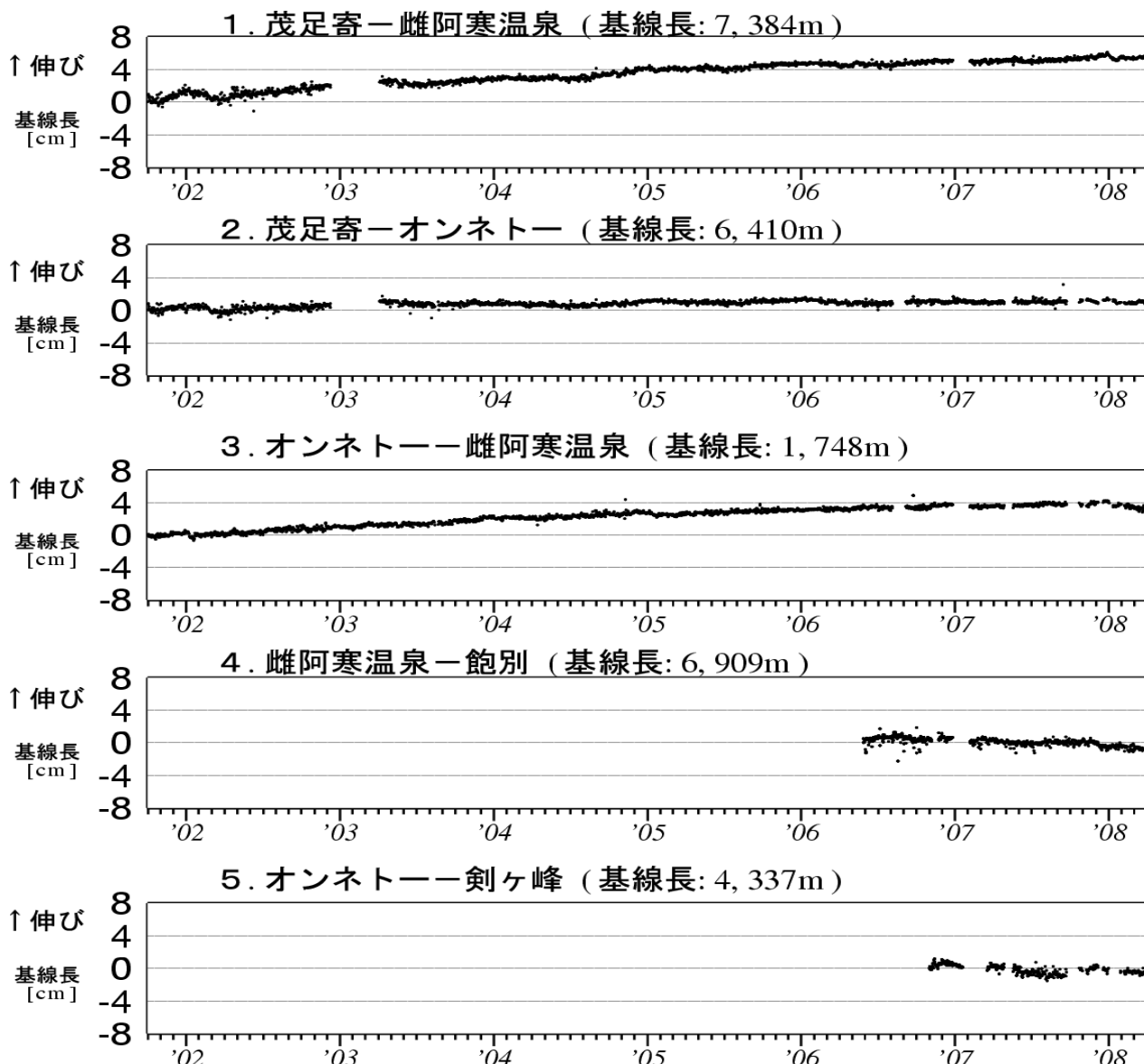


図7 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 10 月~2008 年 3 月)  
 グラフの空白部分は欠測  
 図7の1~5は、図8のGPS基線①~⑤に対応しています。

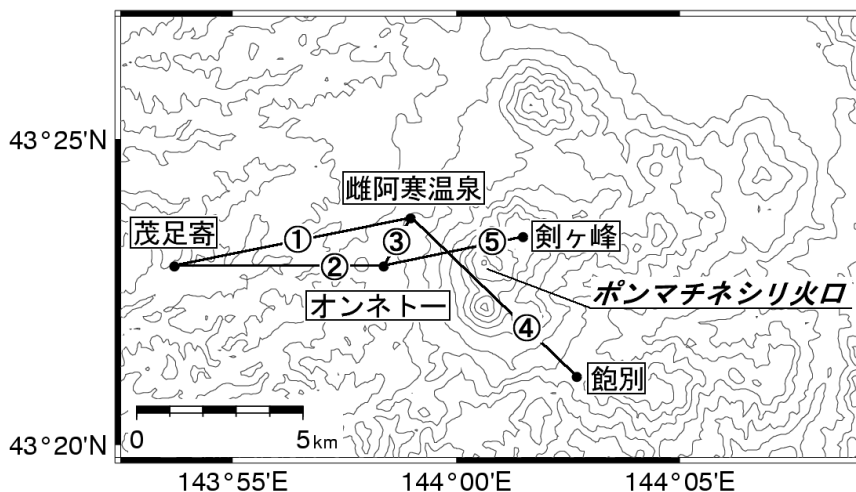


図8 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図